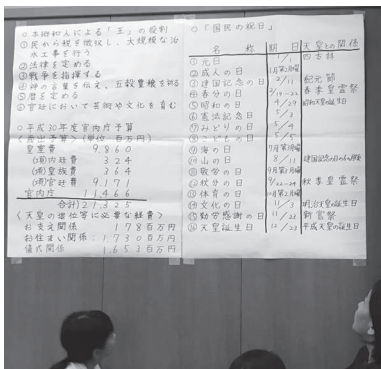


発行所 日本キリスト教団 なか伝道所
〒231-0026 横浜市中区寿町 3-10-13 金岡ビル 203/205
Tel. (045) 671-1109
振替 00200 - 1 - 47369 E-Mail : naka-ch@hb.tp1.jp
http://w01.tp1.jp/~ja6694550
発行者 堀江有里 (題字 松橋 順)

宣教方針
① 貧しい人々への福音に共にあずかる。
② 地域の問題に関わる。
③ 諸教会に呼びかけてゆく。
集会 主日礼拝 日曜日 午前 10 時 30 分より

なかが伝キ「学びの時間」…「天皇」って…?を振り返って

幸前 元



二〇〇八年に始まった夏キャンプの、「学びの時間」では、時々の課題を話し合ってきた。「上郷森の家」で開かれたキャンプの今年のテーマは「天皇」。子どもたちは学校でどう学び、テレビ報道をどう見ているのだろうか。そして大人たちは…?

娘の日に「天皇」って何?というテーマで発題させたねらいは、今の小学校六年生の天皇像を参加者で共有することだった。日本政府がどのような天皇像を子どもに刷り込もうとしているかを知り、そこから議論しようと考えた。実際は、子どもに全く関心のない話題で、発題をしてもらうためのモチベーション維持に苦労した。

一つ目は、「天皇」でイメージす

ることを書き出してもらった。へえらしい人。政治のことを色々していて忙しいそう。やさしそう。地震とか大きな災害があったときに、みんなを励ましている。奥さんと仲良さそう。東京の大きなところに住んでいてお金持ちそう。>

どれも大人も共感しそうなイメージだが、天皇の輪郭をはつきり描けない。

二つ目に実際に使用している社会の教科書を調べてみた。教育出版『小学社会6上』では、天皇の始まりとしての大和朝廷、大化の改新、奈良の大仏づくり(聖武天皇)、明治維新、大日本帝国憲法の発布と教育勅語、敗戦(玉音放送)。天皇の記述は以上の六回だけで、しかも途中千年間以上も飛んでいた。娘が使用している教科書は良心的でバランスが取れた記述内容だったが、これでは、天皇の実像を把握するのは困難だ。

三つ目は、一般的な王の概念と現代の天皇の役割を比較することにした。一般的な王の概念は、本郷和人著『日本史のツボ』(二〇一七年 文春新書) より引用した。

王は、民から税を徴収し、大規模な治水工事をを行う。法律を定める。戦争を指揮する。神の言葉を伝え、五穀豊穡を祈る。暦を定める。宮廷において芸術や文化を育む。

天皇が持つ王としての側面を確認できた。そして、現代の天皇の役割は不明瞭との印象を改めて強くした。

最後のアプローチとして、日常生活との関わりから天皇への接近を試みた。国民の祝日十六日のうち天皇絡みが九つもあった。皇室の本年度予算は二百十三億円。これと

は別に、来年の退位即位用に三十六億円を予算化。宮内庁が皇室に伝わる文化ということ、書道、短歌、雅楽、鴨の猟、鶴飼いに関わっている。日常生活と天皇との意外な関係を見つけた。かえって、皇室の浮世離れ感が浮き彫りになった。

以上をまとめると、現憲法下の天皇は極めて曖昧な存在で、政治的に悪用されかねない危険な存在と言わざるを得ない。共同体や国家をどうしても統合しておきたいという強い欲求を持った一部の勢力が確かに存在するようだという不気味さを感じる。また、天皇および皇室は、男性中心主義のグロテスクな家族像を提示していると思う。

ところで、自分たちはキャンプに参加することを楽しんできたが、少子高齢化が進む中、このような修養会的なイベントをなかが伝道所が開催し続けることは無理があるのかなとも思っており、皆さんと議論していきたい。

発題を受け、出席者で感想の分かち合い。(以下抜粋)

- ・ キャンプに参加できなかったが、今回の学習会で内容がよく分かった。
- ・ 分団の時間、Oさんのお母さんが昭和天皇夫人に強い尊敬の念を持っている話を聞いて驚いた。その時代にすぐに戻れる危険性があるのかも知れない。
- ・ 私の両親、夫の両親も、「天皇陛下万歳」という人たちが多かった。戦前の教育はつくづく恐ろしいと思う。自分たちが働いて納める税金が、神社に使われるのは腹立たしい。

・Hちゃんからの発題は興味深かった。天皇家の存在について、大部分の大人はあまり関心がないと言われたが、友人たちが皇居の掃除を続けたら、最終日に、美智子さんが挨拶に来てくれ感激したとのこと。

・Yちゃんが、同年代の皇族の子がテレビで「○○様」と呼ばれるのを見て、「あの子えらいの?」と言ったのが印象的。

・広島・長崎でヒバクした語り部さんは、天皇のことは何とも思っていないと言っていた。

・自分の連れ合いのお母さんは長崎出身で、クリスチャンであり、ヒバクと戦争体験で天皇への思いは否定的だ。

・歴史の経緯から見ると、天皇は嫌いな部分。昭和天皇は戦争責任を取らずに亡くなった。最後までびくびくして見えた。親を見て育った平成天皇は平和にこだわった。五月に新しくなる天皇はより利用されやすいだろう。今の天皇は手足をもぎ取られている。悪用される恐れは充分ある。

・自分は生活保護で負しい。誰がそうしたのだ。天皇はいらぬと思ってきた。

・学びの時間の発表、すごく楽しかった。

・キャンプは、子どもたちを尊重しているだろうかという質問に対して、親の立場から、子どもたちはキャンプをとても楽しみにしているとの応答があった。

(まとめ 小笠原敦輔)

「学びの時」の発表から…

H

「天皇」って言われてもよく知らないし、あんまり興味もなかったのだけど、お父さんがしつこいので、今回発表することになりました。よろしくお願ひします。

まずお父さんと、「天皇」でイメージすることを書き出してみることにしました。(略) これだけじゃよくわからないので、とりあえず、私が学校で使っている教科書に、天皇がどのように書かれているか調べてみました。(略)

結局、教科書を調べてみましたが、「天皇」が出てきたのは六回だけで、しかも途中千年間以上も飛んでいたの、長い歴史のなかで天皇が何をしてきたのかよくわかりませんでした。本当はこれで終わりにはしたかったのですが、最初のイメージを確認することも大切だとお父さんがうるさいので、もう少し発表を続けます。ここから先はほとんどお父さんが勝手に調べたことを私が紹介だけします。

まず、歴史の専門家の本で「王」の役割について書かれたものを見つめました。これは、天皇に限らず、世界的に共

通なものだそうです。(略)

ちなみに、天皇とその家族の人たちは、ものすごくたくさんお金を使っているみたいです。お父さんが調べたところ、天皇と家族、そしてそのお世話をする人たちのために、今年一年間で二百十三億円も使うそうです。お金を使い過ぎだと思えます。私は税金をまだ払っていないので関係ないのですが、お父さんは怒っていました。

天皇は神社の神様のえらい人だそうです。でも、私が学校で習った天皇は、聖武天皇のように仏教の方を大事にしているみたいだったので、変だなと感じました。もしかしたら、神社の神様に関係するようになったのはそんなに昔のことではないのかなと思いました。

お父さんが有里さんから、祝日について調べてみたらいいと言われたそう、で、「国民の祝日」について調べてみました。一年で十六日の祝日がありますが、そのうち九個は天皇と関係していることがわかりました。最後に、芸術や文化への貢献ですが、宮内庁のホームページを見ると、「皇室に伝わる文化」として書道、短歌、雅楽に皇室家族が関わっていることがわかりました。「これも結局は税金から払われているんだな」とお父さんは大きなため息をついていました。



キャンプでの自由時間、「火の間」のたき火を見つめ、パチパチ音に耳を傾けるひとときも…。

風景

小学校低学年だった頃のことを、私は時々思い出します。それは「宮」という名の級友のことです。

ある日の教室で一、五ミリくらいのマス目のある画用紙が配られました。「好きな色でそのマス目を埋めていきなさい」という課題でした。私も色をぬるのが好きでしたから、そのマス目をいろいろな色で埋めていったのを覚えています。

みんなの絵が教室に張り出されました。その中に「宮」の字を画面一杯にぬり込んだ一枚がありました。それは、その級友の名前の「宮」の字を浮き上がらせていたのです。

したがって私の知る「宮さん」は、その小学校時代の「宮さん」と、今現在、教会でいつも柔和で最高齢でいらつしやる「宮さん」です。

今も昔も「宮さん」に私は励まされています。

(佐々木五律子)

使信

自由と解放の告知

堀江有里

主はわたしに油を注ぎ
主なる神の霊がわたしをとらえた。

わたしを遣わせて
貧しい人に良い知らせを
伝えさせるために。

打ち砕かれた心を包み
捕らわれ人には自由を

つながれている人には解放を
告知させるために。

主が恵みをお与えになる年
わたしたちの神が

報復される日を告知して
嘆いている人々を慰め

シオンのゆえに嘆いている人々に
灰に代えて冠をかぶらせ

嘆きに代えて喜びの香油を
暗い心に代えて賛美の衣を
まとうせるために。

(イザヤ書六一章一〜三節)

役割の表明

イザヤ書は、三つの部分にわかれるとし
ばしば指摘されています。今日の箇所は、
最後の「第三イザヤ」と呼ばれる箇所です。

人びとが、バビロンにとらえられて解放さ
れた後のこと、そこで目の当たりにしたの
は、希望のないエルサレムのまじの状況で
した。神殿が破壊され、その再建の気力も
財力もないままに、ただ、絶望していた状
況のただなかにあつた人びと。そこで預言
者が与えられた自分の役割を表明するの
ですが、ここに並べられているのは希望の言
葉たちです。

えーとねえ

風呂上り、一歳の孫の耳がぬれていたの、

五歳のお兄ちゃんに一声。

(ぼーぼと孫との会話)

ぼーぼ 「綿棒(めんぼう)ちょうだい」

お兄ちゃん 「ハイ」

ぼーぼ 「これ竹串(たけぐし)だよ」

お兄ちゃん 「そーか」

次に持ってきたのは麵棒(めんぼう)

ぼーぼ 「これはめんぼうだけど、うどんとか、

お菓子を作るとき使っのよ」

ママが出してきたのが、今ほしかった「めんぼう」でした。

牧野美登里

貧しい人たち、打ち砕かれた人たち、捕
らわれ人たちに投げかけられる希望の言葉
たちは、自由と解放のメッセージです。

〈革命〉の物語

ここで登場する「捕らわれ人」というの
は、経済的な事情で捕らわれていた人たち。
圧倒的な貧困のなかで、多くの負債を抱え
た人びとが生きていくために働きながら、
返済することはたやすいことではありませ
ん。そのために牢屋に捕らえられている人
たちです。かれらは「捕らわれ人」とな
り、奴隷として働かされる。けななしのお
金では肥沃な土地は手に入れることはでき
ない。荒れた土地であれば収穫を期待する
ことはできない。当然、費用や労力にみあ
うだけの収入は得られず、より貧しくなっ

ていくという悪循環がまちかまえてい
けです。

圧倒的な貧困のただなかで、悪循環を断
ち切るためには何が必要か。おいそれと立
ち上がるのできない状態に直面してい
る人びとに預言者は「主が恵みをお与えに
なる年」、「わたしたちの神が報復される
日」(二節)がやってくることを告げてい
ます。そのときに、奇跡が起こる。五〇
年に一度やってくる「ヨベルの年」(レビ
記二五・一〇)です。その年には、すべて
の人びとに解放の宣言がなされる、それぞ
れが先祖から伝えられた所有地に帰ること
ができる、という神の約束です。それは悲
惨な状況のただなかに生きる人びとにとつ
ては、大きな希望だったのでないでしょ
うか。

これはまさに〈革命〉の物語です。

アナキズムというモノの考え方

栗原康さんは著書『アナキズム——一
丸となつてバラバラに生きる』(岩波新書、
二〇一八年)のなかで、「革命」という言
葉を取り上げています。アナキズムとは
「無政府主義」と訳されることが多いです
が、もともとはギリシア語の「アナルコス
(anarchos)」。『支配』や『統治』の意味
をもつ「アルケー(Arche)」に否定の接
頭語がついた言葉です。そこから栗原さん
は、アナキーとは「だれにもなんにも支
配されないぞ」、「統治されないものになれ」

という意味だと解説しています。同時に哲学用語としての「アルケー」は「万物の始原」や「根源的原理」を指している。そこから、アナキズムとは「はじまりのない生をいきる」とか、「根拠のないことをやる」ということだと読み取っています（前掲書、八〇九頁）。

「現状を破壊する」というのが、アナキズムのやり方。そう表現されると、なんでもかんでもブチ壊そうとする暴力的な考え方のように思えますが、大事なのは「自身自身の枠をも壊していく」ことが強調されている点です。

なんどもなんどもふりだしにもどって生きなおす。ゼロになって、主人でも奴隷でもない生をいきなおす。だれ

にもなんにもしほられない大地で生きなおす。(…)ここが新天地でなかったら、どこにも新天地なんてないんだよ。それが革命を生きたということだ

(前掲書、一四五頁)。
わたしは、この栗原さんの言葉を読みながら、寿のまちで出会った人たちに思いを馳せました。

●寿町にて

これまで寿のまちではこんな表現を聞くことができませんでした。流れている場所としての寿町。あるいはさまざまな依存症を抱えながら、人生が「破綻」し、この場からやり直そうと立ち上がった人たち。このまちで生きること、あるいはまちにかかわること

まど

▼年末年始にかけて「第45次越冬闘争」がおこなわれました。期間を過ごすためのテントの建込みや厨房づくり、そして解体作業まで、たくさんの方々が全国各地から訪れる日々は圧巻です。「帰ってくる場」としての寿町があることを教えられました。他方で、これらの作業や訪問者たちの対応をずっと中心に担い続けてこられた寿地区センターの三森妃佐子主宰をはじめ、決して多くはない方々のなみなみならぬお働きには頭が下がる思いです。ほんとにスゴイ！▼一月四日は路上生活を余儀なくされた方々と中区役所での生活保護集団申請へ。簡易宿泊所さがしも含め、

朝から夕方まで、物静かな、口数の少ない七〇代のHさんと一緒に時間を過ごすことができました。「やっぱりね、路上は寒いや。ガード下よりも駅の方がマシだったね」。

一〇代からこれまでの仕事のお話もぼつぼつうかがうことができました。▼申請に訪れたのは二十七名。なかにはすでに生活保護受給をしている方々も。渋谷で野宿しながら野宿者の支援をおこなっている友人のこつばを思い出した瞬間でした。「ハウジングファーストっていうやり方がすべてではないんだよね。マッチしない人たちもいるもの」。まだ、いくつものできごとやことばたちが頭のなかを回っている日々です。

(堀江有里)

は、「革命」を考へることなのかもしれません。

しかし、世の中の価値観をひっくり返すことはそうたやすいことではありません。そして、寿のまちを「革命」の場としてとらえようとした瞬間に、わたしたち——とりわけ日常的にこのまちにいるわけではないうちの教会のわたしたち——は、それがある種の利用として置いてしまうことになるのです。寿のまちを「ユートピア」としてしまふことは、絶対的な貧困の問題、そして社会の矛盾を抱え込まれている状況を、前提としてしまうことであり、とても危険なことでもあります。

圧倒的な希望の物語を目の前に、わたしたちが問われていることは、いったい、何でしょうか。圧倒的に矛盾が押しつけられている、このまちのただなかで、礼拝を守ることが、いったい、どのような意味があるのででしょうか。

このまちで、「自由と解放の告知」とい

編集後記

今回のなかだよりは、キャンプでの「学びの時間」に幸前さんが発題してくださった「天皇」を特集しました。天皇代替わりの今年、自分たちの問題として考える必要があると思っただけです。毎年夏のキャンプですが、子どもたちを含めて教会の修養会をどういう形にするのかは、別の機会に話し合いたいと思っています。

(敦)

うメッセージを、どのように読み取っていくことができるのか、ひきつづき考えていきたいと思っています。